



地 理 教 育
鐵 道 唱 歌
第 三 集





白露
志

東京華族女學校教師 奧好 義作曲
東京音樂學校助教授 田村虎藏作曲

地理教育 鐵道唱歌 第三集

大和田建樹作歌

鐵道唱歌 (三集) 多梅稚作曲



1. 1 1. 2 | 3. 3 3 2 | 1. 1 1 6 | 5. 0 |
 キー シヤハ ケム リ ナ ハ キ タ テ テ
 ガー シニ ツム キ テ ア フ ギ ミ ル
 ア カ バ 子 スー ギ テ ウ チ ワ タ ル



6. 6 5. 6 | 1. 1 3. 3 | 2. 2 1. 2 | 3. 0 |
 イー マ ソ ウ ヘ ノ チ イ デ テ ユ ク
 モー リ ハ ヲ ハ ナ ミ シ ア ス カ ヤ マ
 ナ モ ア ラ カ ヲ ノー テ ツ ノ ハ シ



5. 5 5. 5 | 5. 5 6. 5 | 3. 1 2. 3 | 2. 0 |
 ユク ヘ ハ イー ツク ミ チ ノ ク ノ
 カワ ラ ケ ナ ナー ゲ テ ア ソ ビ タ ノ
 ソ ノ ミ ナ カー ミ ハ チ チ プ ヨ リ



1. 2 3. 3 | 2. 2 5. 5 | 3. 3 2. 2 | 1. 0 |
 アチ モ リ マ デ モー ヒ ト ト ビ ツ
 エー ド ノ メ イ シ ョ ノ ソ ノ ヒ ト ナ
 イー テ タ ス ミ ダ ノ カ ヲ ト ナ ル

教地理 鐵道唱歌 第一集 東 海 道
 教地理 鐵道唱歌 第二集 山陽、九州
 教地理 鐵道唱歌 第三集 東北地方
 教地理 鐵道唱歌 第四集 北陸地方
 教地理 鐵道唱歌 第五集 畿内及隣邦
 教地理 世界唱歌 全二冊 新 刊

鐵道唱歌 (三集) 田村虎藏作曲

〔或はへ〕

5. 5 1. 1 | 3. 3 2. 1 | 5. 3 | 2. 1 2 0

キシヤハ ケ △ リ チ ハ キ タ テ テ
ガ ー シ ニ ツ キ テ ー ア フ ギ ミ ル
ア カ バ 子 ス ギ テ ー ウ チ ヲ タ ル

3. 3 2. 1 | 6. 6 1. 6 | 5. 6 | 5. 3 5 0

イ マ ソ ー ウ ヘ ノ チ イ デ テ ユ ク
モ リ ハ ー ウ ハ ナ ミ シ ア ス カ ヤ マ
ナ モ ア ラ カ ハ ノ ー テ ツ ノ ハ シ

6. 6 5. 6 | 1. 2 3. 3 | 2. 1 | 6. 1 6 0

ユ ク ヘ ハ イ ヅ ク ー ミ チ ノ ク ノ
カ ハ ラ ケ ナ ゲ テ ー ア ソ ビ タ ル
ソ ノ ミ ナ カ ミ ハ ー チ 、 プ ヨ リ

5. 5 6. 6 | 3. 3 5. 5 | 2. 1 | 3. 2 1 0

ア チ モ リ マ デ モ ー ヒ ト ト ビ ズ
エ ド ノ ー メ イ シ ョ ノ ソ ノ ヒ ト ツ
イ デ テ ー ス ミ ダ ノ カ ヲ ト ナ ル

奥州線—磐城線

一 汽車は烟を噴き立て、ゆく
今ぞ上野を出て、ゆく
ゆへは何く陸奥の
青森までも一飛に
王子に着きて仰ぎみる
森は花見し飛鳥山
土器なげて遊びたる
江戸の名所の其一つ

上野 田端 王子

三

赤羽^{あかばね}すぎて打ちわたる

名^なも荒川^{あらかは}の鐵^{てつ}の橋^{はし}

その水^{みづ}上^{かみ}は秩父^{ちちよ}より

いで、墨田^{すみだ}の川^{かは}こなる

四

浦和^{うらわ}に浦^{うら}は無^なけれど

大宮^{おほみや}驛^{えき}に宮^{みや}ありて

公園^{こうえん}ひろく池^{いけ}ふかく

夏^{なつ}のさかりも暑^{あつ}からず

赤羽

廣

浦和

大宮

五

中山道^{なかせんどう}と打^{うち}わかれ

ゆくや蓮田^{はすだ}の花^{はな}ざかり

久喜^{くき}栗橋^{くりはし}の橋^{はし}かけて

わたるはこれぞ利根^{とね}の川^{がは}

六

末^{すえ}は銚子^{ちうし}の海^{うみ}に入る

坂東^{ばんとう}太郎^{たろう}の名^なも高^{たか}し

みよや白帆^{しらほ}の絶間^{たえま}なく

のぼればくだる賑^{にぎわひ}を

蓮田

久喜
栗橋

七 次つぎに來きたるは古河間々田こがま々た

兩手りやうてひろげて我汽車わがきしやを

萬歲ばんざいと呼よぶ子供こどもあり

おもへば今日けふは日曜にちようか

八 小山こやまをおりて右みぎにゆく

水戸みづとと友部ともべの線路せんろには

紬産地つむぎのちの結城むすむすあり

櫻名所さくらな所の岩瀬いわせあり

古河
間々田

小山

結城

岩瀬

九 左ひだりにゆかば前橋まへはしを

經へて高崎たかに至いたるべし

足利あし桐生きり伊勢崎いせは

音ねに聞きえし養蠶地やうさんち

一〇 金きんと石いしとの小金井こがねいや

石橋いしはしすぎて秋あきの田たを

立たつや雀すずめの宮鼓みやつづみ

宇都宮うつのみやにもつきにけり

足利
桐生

伊勢崎

小金井

石橋

雀宮

宇都宮

二 いざ乗り替へん日光の

線路これより分れたり

二十五マイル走りなば

一時半にて着くといふ

三 日光見ずは結構と

いふなこいひし諺も

おもひしらるゝ宮の様

花か紅葉か金欄か

・日光

三 東照宮の壯麗も

三代廟の高大も

みるまに一日日ぐらしの

陽明門は是かこよ

四 瀧は華嚴の音たかく

百雷谷に吼え叫ぶ

裏見霧降こりぐくに

雲よりおつる物すこさ

岡本 寶積寺 氏家 片岡

一五 又立ちかへる宇都宮

急げば早も西那須野

こゝよりゆけば塩原の

温泉わづか五里あまり

一六 霰たばしる篠原と

うたひし跡の狩場の野

たゝ見る薄女郎花

殺生石はいづかたぞ

矢板野崎

西那須野

一七 東那須野の青嵐

ふくや黒磯黒田原

こゝは何くま白河の

城の夕日は影赤し

一八 秋風吹くま詠じたる

關所の跡は此まこころ

會津の兵を官軍の

討ちし維新の古戦場

東那須野

黒磯
黒田原

豊原

白河

一九 岩もる水の泉崎

矢吹須賀川冬の來て

むすぶ氷の郡山

近き湖水は猪苗代

二〇 ころに起りて越後まで

つづく岩越線路あり

工事はいまだ半にて

今は若松會津まで

泉崎

矢吹
須賀川

郡山

・若松

三 日和田本宮二本松

安達が原の黒塚を

見にゆく人は下車せよと

案内記にもしるしたり

三 松川すぎてトン子ルを

いづれば來る福島

町は縣廳所在の地

板倉氏の舊城下

日和田
本宮
二本松

松川

福島

三 しのぶもじずり摺り出だす

石の名所も程近く

米澤ゆきの鐵道は

此町よりぞ分れたる

四 長岡おりて飯坂の

湯治にまはる人もあり

越河こして白石は

はや陸前の國ぞ聞く

・米澤

長岡

桑河
藤田

越河
白石

二五 末は東の海に入る

阿武隈川も窓ちかく

盡きぬ唱歌の聲あげて

躍り來れるうれしさよ

二六 岩沼驛のにぎはひは

春と秋この馬の市

千里の道に鞭うちて

すゝむは誰ぞ國のため

岩沼

大河原
槻木

増田
長町

二七 東北一の都會にて

其名しられし仙臺市

伊達政宗の築きたる

城に師團は置かれたり

二八 阿武隈川の埋木も

仙臺平の袴地も

皆この土地の産物ぞ

みてゆけこゝも一日は

仙臺

二九 愛宕の山の木々青く

廣瀬の川の水白し

櫻が岡の公園は

花も若葉も月雪も

三〇 多賀の碑ほどこかき

岩切おりて乗りかふる

汽車は塩竈千賀の浦

いざ船よせよ松島に

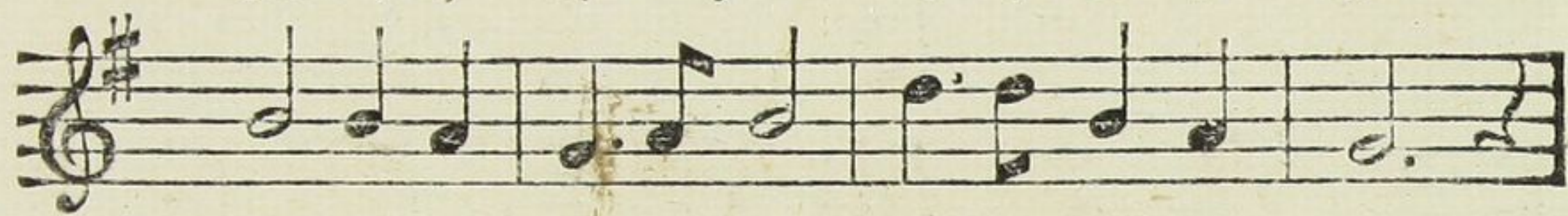
岩切

・塩竈

松島船あそび



1 { コーゲヤ コゲヤー イザフ ナ コ
ミールガ ママニー カハフリ ヌ ヌ
ユキノ アシター ツハキ ノ ヌ ヌ
ゴダイ ドチー ミギニ シ テ



2 { カーガミ ナセ ルー ウミ ノ ウ ハ
マツノ ナガ ター イハ ナ サ ラ カ
アツブ アヒト ハー イナ ナ ラ カ
ズ井ガ ン ノー ー ム リ チ カ キ

(三) 雪のあした月の夜半
あそぶ人はいかならん
みれごとく果もなき
二子島の夕げしき

(四) 五大堂を右にして
瑞巖寺の森ちかき
磯に船は著きにけり
暫しといふ程もなく

奥好義作曲



3 { ナーミニ ウカ プー ハ ツ ビ ク ノ
マヘニ タ テ ルー シ マ ハ ハ ナ ヤ
ミレド タ ミ レ ドー シ マ ハ モ ナ キ
イソニ フ子 ハー ツ テ ニ ケ リ



4 { シーマ ノ カト ゲモ ー オ モ シ ロ ヤ
アトニ タ シ ツ ホ ノ ー カ ス ム シ タ リ
フダゴ シ ツ マ イ フ ー カ ヌ フ ド ゲ メ シ ナ キ
シバシ トイ フー ホ ー ホ ド メ モ シ ナ ク

松島船あそび

(一) こげやくいざ船子
鏡なせる海の上
波に浮ぶ八百の
島の影もおもしろや

(二) 見ろがまゝに變りゆく
松のすがた岩のさま
前に立てる島ははや
あごに遠く霞みたり

三 汽車に乗りても松島の

話かしまし鹿島臺

小牛田は神の宮ちかく

新田は沼のけしきよし

三 水は川瀬の石こして

さきちる波の花泉

一の關より陸中と

きげば南部の舊領地

利府

松島

鹿島臺

小牛田

瀬峰

新田

石越

花泉

一ノ關

三三 阿部の貞任義家の

戦ありし衣川

金色堂を見る人は

こゝにておりよ平泉

三四 すぎゆく驛は七つ八つ

山おもしろく野は廣し

北上川を右にして

つくは何くぞ盛岡市

平泉

前澤

水澤

金崎

黒澤尻

石鳥谷

日詰

矢幅

盛岡

三五

羽二重おりと鐵瓶は

市の産物と知られたり

岩手の山の峰よりも

南部の馬の名ぞ高き

三六

好摩川口沼宮内

中山小鳥谷一の戸と

すぎゆくまゝに變りゆく

土地の言葉もおもしろや

好摩川口 沼宮内 中山 小鳥谷 一ノ戸 福岡 三ノ戸

三七

尻内こせば打ちむれて

遊ぶ野馬の古間木や

今日ぞ始めて陸奥の

海こは是かあの船は

三八

野邊地の灣の左手に

立てる岬は夏泊

こまらぬ汽車のすゝみよく

八甲田山も迎へたり

劍吉 尻内 下田 古間木 沼崎 乙供 野邊地 狩場澤 小湊 浅虫

三九 渚なみさに近ちかき湯ゆ野島のしまを

見みつゝくゞれるトン子こルの

先まづは野内のさいか浦町うらまちか

浦うらのけしきの晴はれやかさ

四〇 勇ゆうむ笛ふえの音ねいそぐ人ひと

汽車きしゃは著つきけり青森あおもりに

むかしは陸路りくろ廿日はつか道みち

今いまは鐵道てつどう一晝いちちゆう夜や

野内
浦町

青森

四一 津輕つがるの瀬戸せとを中なかにして

函館はこだてまでは二十四にじゅうよ里り

ゆきかふ船ふねの煙けむりにも

國くにのさかえは知しられけり

四二 汽車きしゃのりかへて弘前ひろさきに

あそぶも旅たびの樂たのしみよ

店みせにならぶは津輕塗つがるぬり

空そらに立たてるは津輕富士つがるふじ

・弘前

四三 歸りは線路の道かへて

海際づたひ進まんこ

仙臺すぎて馬市の

岩沼よりぞ分れゆく

四四 道は磐城をつらぬきて

常陸にかゝる磐城線

ながめはてなき海原は

亞米利加までやつくらん

(歸路)

仙臺

岩沼

巨理

吉田
坂元
新地

四五 海にしばらく別れゆく

小田の緑の中村は

陶器産地と兼ねて聞く

相馬の町をひかへたり

四六 中村いで、打ちわたる

川は眞野川新田川

原の町より歩行して

妙見まうでや試みん

中村

鹿島

原ノ町

磐城太田
小高

四七 浪江なみうつ稻の穂の

長塚すぎて豊なる

里の富岡木戸廣野

廣き海原みつゝゆく

四八 しばくくゞるトン子ルを

出てはながむる浦の波

岩には休む鷗あり

沖には渡る白帆あり

浪江

長塚

富岡

木戸

廣野

四九 君が八千代の久の濱

木奴美が浦の波ちかく

をさまる國の平町

並が岡のけしきよし

五〇 綴湯本をあそにして

ゆくや泉の驛の傍

しるべの札の文字みれば

小名濱までは道一里

久ノ濱

四ツ倉

草野

平

綴湯本

泉

植田

五一 道もせに散る花ふりも

世に芳ばしき名を留めし

八幡太郎が歌のあと

勿來の關も見てゆかん

五二 關本おりて平瀉の

港にやどる人もあり

岩の中道ふみわけて

磯うつ波も聞きがてら

關本

勿來

五三 あひて別れて別れては

またあふ海と磯の松

磯原すぎて高萩に

假るや旅寢の高枕

五 助川さして潮あびに

ゆけや下孫孫も子も

驛夫の聲におどろけば

いつしか水戸は來りたり

磯原 高萩 川尻 助川 下孫 大龜 石神 佐和

五五 三家の中に勤王の

その名知られし水戸の藩

水戸

わするな義公が撰びたる

大日本史のその功

五六 文武の道を弘めたる

弘道館の跡こへば

のこる千本の梅が香は

雪の下よりにほふなり

赤塚
内原

五七 つれだつ旅の友部より

わかるゝ道は小山線

友部

石岡よりは歌によむ

志筑の田井も程ちかし

石岡

五八 間もなく来る土浦の

岸を浸せる水海は

土浦

霞が浦の名も広く

汽船の笛の音たえず

藤代
取手

五九

雲井の空に耳二つ

立てたる駒の如くにて

みゆる高嶺は男體と

女體そびゆる筑波山

六〇

峰にのぼれば地圖一つ

ひろげし如く見えわたる

常陸の國のこゝかしこ

利根のながれの末までも

我孫子
柏

馬橋

松戸

金町

龜有

六一

松戸をおりて國府の臺

ゆけば一里に足らぬ道

真間の手兒名が跡といふ

寺も入江ものこるなり

六二

車輪のめぐり速に

千住大橋右に見て

環の端の限なく

ふたゝびもどる田端驛

北千住

南千住

田端

六三 むかしは鬼の住家にて

人のおそれし陸奥の

はてまでゆきて時の間に

かへる事こそめでたけれ

六四 いはへ人々鐵道の

ひらけし時に逢へる身を

上野の山もひらくまで

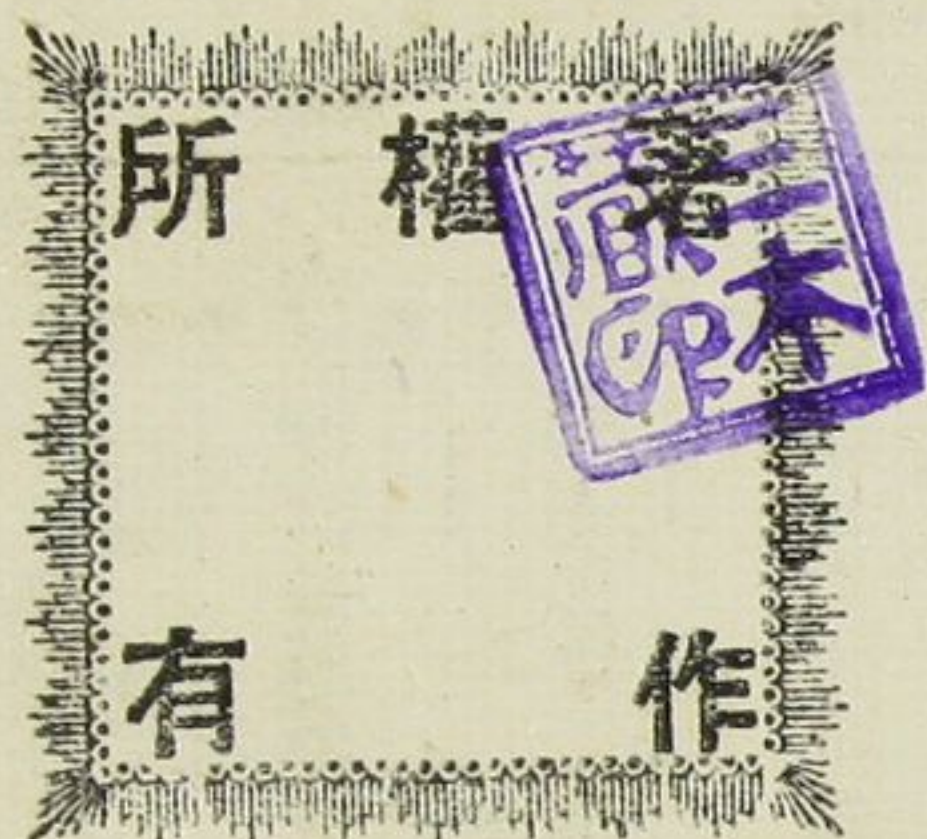
鐵道唱歌の聲立てと

上野

明治三十三年十月十日印刷
明治三十三年十月十三日發行

定價六錢 三集

轉載譯譜謄寫不許



作曲者 奧好義
作曲者 田村虎藏

著作者 大和田建樹

發行者 三木佐助

印刷者 野村宗十郎

東京賣捌

東京市牛込區東榎木町二十番地
大阪市東區北久寶寺町四丁目百六番邸
東京市京橋區築地三丁目十五番地
日本橋通三丁目 林平次郎
新橋竹川町 共益商社
銀座三丁目 十字屋書店

三木書店音樂書略目

<p>教育音樂講習會編纂文部省檢定譯 新編 教育唱歌集</p> <p>東京音樂學校教授小山作之助編纂 新撰 國民唱歌集</p> <p>大阪府師範學校教諭多梅雅編纂 新編 日本唱歌</p> <p>理學博士田中正平校閱田村虎藏編纂 近世 樂典教科書</p> <p>大阪府女子師範學校長大村芳樹著 音樂 遊戲之枝折</p> <p>東京音樂學校教授山田源一郎著 圖解 ヲワイオリン指南</p> <p>大阪府師範學校教諭多梅雅著 ヲワイオリン 初步</p>	<p>全二冊</p> <p>全四冊</p> <p>全一冊</p> <p>全一冊</p> <p>全一冊</p> <p>全一冊</p> <p>全一冊</p>	<p>定價各十二錢</p> <p>定價各八錢</p> <p>定價金十二錢</p> <p>定價金四十錢</p> <p>定價金六十錢</p> <p>定價金五十錢</p> <p>定價金四十錢</p>
---	--	--